2022年8月18日（木）　　第　号

徳川慶喜

音更町立
共栄中学校
1年A組8番
小田　心晴

なぜ徳川慶喜は大政奉還を受け入れたのか？

小学校の頃の教科書には、新しい政府をつくる運動を始め、その動きにおされ一八六七年に大政奉還を起こした。」と書かれている。

徳川慶喜が大政奉還を起こしたというのは、有名な話なので詳しくまとめてみた。

慶応3年（一八六七年）10月14日、15代将軍徳川慶喜は、朝廷に大政奉還を行う。慶喜は大政奉還をすることによって、政権を朝廷に返上した。これだけ聞くと、幕府にとっては裏切り者ではないかと思うかもしれない。だが、この大政奉還にはいくつかの狙いがあったのだ。

まず、当時は薩長藩の倒幕の勢いが大きくなっていた。そのため、このままでは大きな内乱が起きると慶喜は考える。そこで、その倒幕対象である幕府を先手を打って消滅させ、倒幕の大義を失わせようとしたのだ。

また、朝廷に政権を返したとしても、長年全国統治のための政治をしてこなかった朝廷にそのノウハウはなく、引き続き徳川家が実質的な政治を行うことになるだろうと慶喜は踏んでいた。

このように、大政奉還をすることは、国内の内乱をおさえ、徳川家の権威を保ったために有効な手段であったと言えるのだ。このことから、慶喜の聡明さが伺える。

慶喜は、自分の立場を理解し、自己の利益だけでなく民を思いやることのできる人物。これが功績から考察できる慶喜の人物像だ。しかし、慶喜は女性から好かれていなかったという話もある。

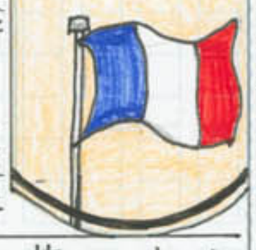
その主な理由は「勝手ばかり言うから。」一八六二年には45万両ほど使われていた大奥の経費だが、慶喜就任後の一八六六年には17万両まで消滅されている。

このように、慶喜の決断に振り回されたくないという女性が多かったため、女性からの人気があまりなかったかもしれない。

慶喜の性格は悪かった?!

慶応の改革

慶応の改革とは、徳川慶喜が15代将軍就任すために実行した改革である。慶応2ら3年に行われた。一八六六年七月二十日に家茂が大阪城で病死するが、これを受けて12月5日、英才として評判が高かった一橋家の徳川慶喜が就任した。



徳川慶喜が生まれてから亡くなるまで・・・

年表

1837年	慶喜が生まれる。
1847年	一橋徳川家に養子に入る。
1856年	参議に任じられる。
1862年	将軍後見職に就任。
1864年	将軍後見職を辞任。禁門の変で文長州へ指揮。
1866年	征夷大将軍に任じられ、第15代将軍に就任。
1867年	大政奉還、征夷大将軍を辞職。
1872年	従四位に復帰。
1880年	正二位に昇叙。
1888年	静岡城下の西草深へ移る。
1897年	静岡から東京へ移る。
1898年	有栖川宮威仁親王の仲介で大政奉還以来に明治天皇に謁見。
1902年	「徳川慶喜家」を創設、貴族院議員に就任。
1910年	貴族院議員を辞職隠居。
1913年	風邪と急性肺炎により76才で死去。

徳川幕府歴代将軍

歴代	将軍家	名前	在職期間
初代	徳川家	康	1603(62)～1605(69)
2代	徳川家	忠	1605(27)～1623(45)
3代	徳川家	光	1623(20)～1651(48)
4代	徳川家	綱	1651(11)～1680(40)
5代	徳川家	綱吉	1680(35)～1709(64)
6代	徳川家	宣	1709(48)～1712(51)
7代	徳川家	継	1713(5)～1716(8)
8代	徳川家	吉宗	1716(33)～1745(62)
9代	徳川家	重	1745(35)～1760(50)
10代	徳川家	治	1760(24)～1786(50)
11代	徳川家	斉	1787(15)～1837(65)
12代	徳川家	慶	1837(45)～1853(61)
13代	徳川家	定	1853(30)～1858(35)
14代	徳川家	茂	1858(13)～1866(21)
15代	徳川家	慶喜	1866(30)～1867(32)

趣味を楽しむ徳川慶喜

将軍辞職後、政治の表舞台から姿を消した徳川慶喜は、長い隠棲生活のなかで趣味へと没頭していく。多芸多才な人物であった慶喜は、あらゆる趣味を持っていたが、なかでも熱を注いだ趣味が写真撮影だ。将軍時代から好んでいた写真を通して、外の世界を覗いていたといわれている。

編集後記

今回、徳川慶喜のことを調べてみると、大政奉還のこと以外にもたくさんの情報がありました。

十勝毎日新聞